

学級指導における性教育

「性被害」について（中学2年）

足利市立第二中学校教諭 茂木 宏 亮

1. はじめに

近年、性の解放とともに、性に対する関心が社会全般に高まりつつあることはいうまでもない。このような世代に成長している子どもたちには、当然、これに対処できる知識や態度を身につけておく必要があると考える。学校教育はもちろん、家庭教育においてもこの問題をしっかりした態度で取りあげ、指導することにより心身ともに健全な社会の一員が育成されていくことを願っている。

中学校教育においては、おもに保健体育の教科をはじめ、道徳・特別活動の学級指導（健康安全に関する内容）で取りあげて指導することになっている。

著しく性にめざめる年代の子どもを担当する中学校の学級担任者の1人として、年間わずかな学級指導の時間から「性教育」の時間を設定し実施した授業の一例を示す。今後、各指導者の参考になれば幸いである。

2. テーマ設定の理由

中学校時代は、性成熟の面で、もっとも激しいときでもあり、身体的にも、精神的にも個人差の大きいときである。このようなときに性の問題をとりあげて学習することに時期尚早の声もあるが、彼らの実態は異性との交際を求め、積極的な行動を示しているのが現状である。

しかし、彼らの男女交際の場において、男女の性的欲求の相違、性行動の特性を理解しないで交際している。このようなところから性被害が生じやすい。以上のことから関心の高まるこの時期をとらえ、自分の性意識や性行動を客観的にみつめられる態度を身につけさせ、起こりやすい性非行の傾向を知らせたり、清らかな明るい男女交際ができるよう指導すべきであると考え、このテーマを設定した。

3. 資料の選択

授業設計をすすめていくうえで、テーマのねらいの到達のためにはどのような資料が必要で、その資料をどう使って指導したらよいか検討を十分に行う必要がある。ところがこのテーマに関しての資料は非常に少なく、手近なところはなかなか見あたらなかった。

性教育の内容を大きく分けると1つは生理、解剖学的な面、一般にいう性器教育、もう1つは、

精神、衛生医学、心理学的な面、一般にいう性モラルを取り扱う教育ということになると思う。

前者の面においての指導資料となるものは医学業書やその他にも数多く見当たる。ところが、後者の面になると最近、出版物としては数多く出されてはいるが、今回のテーマ「性被害」を取り扱うための導入資料としてはどれが適切なものであるか非常に迷ったのである。というのは、性被害ということばの解釈や被害の程度というか、限界の決定にむずかしさがあった。とかく性の被害というと女性が被害者で、男性が加害者であるという観念が強い。しかし、そうともいえない場合があるのではないだろうか。いろいろ悩んだ末、自分なりに性被害とは、男性・女性をとわず基本的には、相手に対して性に関する身体的、精神的に害を与えることだ、と解釈をしてみた。

そんなところから、いろいろな資料を見るにつけ、性そのものの表現を軽く受け流し、文体もきれいに扱っているもの、また逆に性を赤裸々にかつ露骨表現されているものまで資料は巾広くあるということだ。現状の学級で指導する場合、どの程度の資料が適切か疑問をもった。

現在、解剖学の面で指導された場合、統一のとれた見解で扱われ、指導面においても大差のないように感じられる。

しかし、精神衛生医学や心理学の面で指導する立場に立った場合には、前述したように、非常に複雑であり、指導者の中でも露骨に表現された資料を取扱って指導している人は数少ない。指導者の中には現在のような、情報化時代では子どもたちの言動や行動から、このくらいの資料を取扱って指導するくらいの勇気が必要であると勧めてくれる人もあった。だが自分としてはこのテーマを取りあげて指導する立場として、やはり学級の生徒たちが異性に対してどう考え、どの程度の関心を持ち、理解しているかを知ってからでないと、うかつに手が出せないことに気がついた。

そこで、つぎのような実態調査を試みたのである。

性教育に関するアンケート 2年3組 男20名 女18名

- (1) あなたは現在、あの人と交際してみたいと思う異性の人がいますか。
(現在 交際中も含む)

	男	女
いる	16	16
いない	4	2

○その相手の人はどんな関係の人ですか。

下級生	2	1
同級・同学年生	13	7
上級生	0	7
高校生	0	1
大学生	0	0
社会人	0	0
その他	1	0

(16)(16)

○その人との交際の限界をどの程度と考えていますか。

友情を感じる	8	6
強い好意と愛情	3	4
恋愛状態	1	3
よくわからない なんとなく	4	3

(2) 現在異性との交際をしている人、どの程度の交際か。

グループで話をする。	9	12
1対1で話をする	0	1
文通・電話程度	1	0
それ以上の行為	0	0

(10)(13)

○その人と交際をはじめた原因(動機)は?

※ 右表, その他の選択理由として

- 異性を理解するため ○社交性を高めるため
 - 肩身がせまいから ○よい人格を育てるため
 - 競争相手として励みになるから
- (いづれも該当者なし)

勉強のことで	1	2
クラブ・部活動で	5	3
遊び友だちとして	3	2
好意をもったから	0	3
ただなんとなく	1	1
恋愛の相手がほしい	0	1

(3) あなたは性についての話を友人としたことがあるか

あ る	15	10
な い	5	8

(4) あなたは男子の生理を知っていますか。

知っている	12	6
知らない	8	12

○それを何で知りましたか。

友人の話	9	8
先生や父母	0	0
雑誌や本	3	4
知らないのでわからない	8	12

(5) あなたは女子の生理を知っていますか

知っている	14	18
知らない	6	0

○それを何で知りましたか

友人の話	10	9
先生や父母	1	13
雑誌や本	7	5
知らないのでわからない	6	0

(6) あなたは赤ちゃんが、どのようにして生やれるか知っていますか。

知っている	2	0
大体知っている	13	13
よくわからない	5	5

(7) 学校教育の中で、近ごろ「性教育」をとりあげて勉強していこうとする意向が強いが、あなたはこれについてどう思いますか。

やってもらいたい	3	0
どちらでもよい	16	14
やらない方がよい	1	4

以上のような調査結果が得られたが、3年前に同じような調査を実施したことがあるが、これと比較して、ここわずか1・2年の間に子どもたちの関心度、理解度が急激に変化してきていることに驚かされたのである。

それと同時に自分の担当する学級の生徒にも、かなりの差があることに気づいたのである。

この調査を実施する前は、数年前のイメージを誇示し、そのままの姿勢で指導にあたろうとした自分を軽率に思う反面、自分と生徒との間に大きなギャップのあることを痛感したのである。

そこで、資料選択にあたってクラスの生活班から毎週提出される日誌や生活作文の中から、また日常の清掃、給食指導のときの対話から何か現状の生徒の心を少しでもつかみたいと努力を重ねたのである。

その結果やはり実態に即した資料は一般の出版物の中からは適切なものが見当らず、このテーマの指導資料としては生徒の作文から取りあげる決心がついたのである。生徒の生活作文の中から、資料になりそうなものを選択し、指導者のねらいを意図したものを組み入れてつくった自作の読み物資料を用いることにした。なるべく原文のままで、子どもの気もちを変えないでつくられた資料が、つぎの作文資料である。

「さよなら A 君」

わたくしがA君とはじめて会ったのは、中学2年生の6月中旬のある日のことだった。地区陸上競技大会の400mリレーの第一走者として選ばれ、スタートの練習をしているときだった。とつぜん後ろから「きみ！ さっきから見ていると全然スタートのダッシュがないじゃないか」と声をかけられ、思わずふりむくと、それは3年のA君だった。A君は本校陸上部のエースとして活躍する優秀な選手だ。色は黒くがっしりした体からほとばしる汗、話をするときに見える白い歯が印象的だ。

A君は私のところにきて、スタートのやり方、第一歩はあまり歩幅を広くとらず、はやく足うらで地面をたたきつけ、だんだんと歩幅を広くして走るようになど、ていねいに教えてくれた。

A君に見守られながら、いっしょになって何回か走っているうちに彼に何とか追いついて行けるようなスピードがでてきた。練習が終って汗をふきながら「きみの走り方は大へんきれいだ。ダッシュ力がもっとつけば早くスピードに乗ることができる」と話してくれました。「どうもありがとうございました。」とあいさつすると、「またあした練習しよう。そして地区大会ではお互いにがんばろう。じゃあ、また。」去って行く彼の後姿を見送りながら「さようなら」という私でした。

毎日が激しく、そして楽しい練習のくり返しでした。私たち4人のリレーメンバーのバトンタッチを熱心に指導する彼の姿はたのもしく思えました。

それからは時折、メンバーから離れ、グラウンドでは2人で練習したり、話をする時間が多くなりました。

いつか学校では、A君と私のことを噂をし、ひやかしたりする者もできました。そのことを彼に話すと「そんなこと気にすることないじゃないか」と軽く受け流し「大会が近いんだ、さあ練習だ、がんばろう」と声をかけられ、私も、「それもそうね」とお互いにはげまし合い、練習が終って夕方遅くなると2人でいっしょに帰ることも、たびたびありました。帰り道、私の家の近くまでの間、彼は現在の練習方法や、地区大会に出場する他校のようすなど、時間の短かさを感じる程に話をしてくれました。

いよいよ地区大会の当日がやってきました。A君と私たちは、お互いに声援し合い、共に予選を通過し、決勝へ進出しました。決勝がはじまる前、A君は私のところへやってきて「おちついて行け、練習の通りだ。自信を持ってやれよ」と声をかけてくれました。私は「まかしといて」といい、走路へ出て行きました。いよいよスタート、少し胸がドキドキしたけれど、練習も十分だったせいか、ピストルの音を聞くとからだは軽く跳ぶように前へ出てきました。第二走者へバトンが渡る時、私たちのチームが1位だなとわかりました。2位を5メートルほど離してゴールへとび込んだ時、「やったあー1位だ」とさげびたい気持ちがしました。競技が終ってチームの4人が引きあげて来ると、むこうからA君が走ってきて「よくやったなあー、がんばったなあー」と私の肩に手をかけて「おめでとう、握手だ」と手を出してきました。私はうれしくて無我夢中で手を握り、ぴょんぴょんはねながら兄に甘えるような気持ちで、うれしさを表現していました。

夏休みも終わるある日の夕方のことだった。とつぜんA君から電話があって、私の家の近くに來ているので、ちょっと会ってこないかというのです。久しぶりに聞いた彼の声に私の心は、はずみ「すぐ行くから待っててね」と電話を切るとすぐ、Tシャツにミニスカートという身軽な服装で彼の待っている神社の境内へ行きました。彼はポロシャツにGパンという服装で石だんのところまで待っていました。「よう、久しぶり」と声をかけ、今は毎日、高校へ進学するための勉強で、がんばっているが、なぜか能率があがらず、陸上の練習をしていたころがなつかしく私に電話をしたと

のことでした。私もA君が来年4月には高校へ行ってしまい、話相手がいなくなることは、さびしいことだと話しました。

いつもならだれかに見られるのが、はずかしいので2人でこんなにゆっくり話をしたこともなかったのに、その日にかぎってまわりを気にしないで、暗くなるのもつい忘れるほど話をしてしまいました。

まわりの景色も夕やみに暮れ、ぼんやりしてきたので、そろそろ帰らなくてはと思ったときでした。いつの間にか彼の手が私の肩にかかり、気がついてはづかしさのあまり避けようと彼のところから離れようとしたときでした。私の顔の前にも近くに彼の顔があり、非常な早さで口を私の顔に近づけてきていたのです。

私は、自分でもびっくりするほど、大きなさびげ声をあげてしまいました。
私は彼を振り切り、「バカ、バカ、A君のバカ」といいながら家まで駆けて帰ってきました。

自分の口のまわりをさわってみると、ぬれていたのは口の右横でした。家へ帰り洗面所へとび込んで顔を石けんでゴソゴソこすりつけ、口のまわりを洗いながら、くやしいようないやらしい彼の姿がにくらしく思い、もう2度と会うまいと決心しました。

(中学2年 女子)

上記の資料がちょっと長文であることに難があったのでテープに吹き込み、読みながらテープを聴かせながら、という方法をとってみた。

また、別な資料として学研スライド、中学校性教育シリーズ「中学生のからだ2」を併用して、授業を展開しようとの構想をたてたのである。

4. 指 導 計 画

テーマの「性被害」を指導するにあたって、ねらいの一つとしては、男女の性行動の相違を理解させることにあつた。そのためには、是非、男女の生理をそれぞれ知っておかなければならないので、学級の実態から考え、事前にこのことを指導する必要性を感じた。そこで学級の実態調査の結果から、性に対する疑問点ならびに道徳の時間で取り扱った男女の協力や理解等を総合して男女の生理を興味本位でなく、まじめな態度でお互いに理解するように説き、第一時の扱いとして指導した。資料としては、学研スライド、中学校性教育シリーズ「中学生のからだ1、2」から抜粋し使用した。そして「性被害」については第2時扱いとした。

5. 指 導 の ね ら い

性被害は男性の生来、女性に対する積極的に行動したいという本能や、女性の安易な挑発的態度によって接触欲や性交欲が理性や意志でコントロールできない時に生ずる行動の結果である。

そこで、このテーマのねらいを「男子と女子の性に対する考え方、感じ方の相違を理解させるとともに、性被害とは、どんなものであるかを理解させ、そのようなことを起こしたり受けたりしないための生活態度を身につけさせる」ということにした。

6. 授業実践記録

教師の発問・発言	生徒の発問・発言	備考 時間
<p>○この前の学級の時間では、男女の生理について学習したね。はじめて知って驚いた人、認識を新たにしたり人など、いろいろあったようですが、きょうは男女の性に対する感じ方、考え方の違い、それに性の被害について勉強してみたいと思います。</p> <p>この2人の男女の行動や態度を考えてみたいと思います。資料が長文なのでテープに吹き込んでありますので、聴きながら読んでください。なお大せつなところには線を引いておきましょう。</p> <p>○今、読んだ作文から、みなさんは2人の交際のあり方をどう考えますか。この資料を前半の大会で優勝するまでと、後半の夏休みのある日の夕方のごとに分けて考えてみよう。</p>	<p>○陸上の選手として選ばれて、グラウンドで練習していた時です。</p>	<p>○学習準備の確認 作文資料 配布 各自点検し姿勢を正す。 ↓</p> <p>○テープのスイッチを入れる。</p> <p>○スイッチを切る ↓</p> <p>7'</p> <p>板書 2人の交際をどう考えるか 大会優勝まで 夏休みのある日の夕方</p>
<p>○2人の知り合ったのは、どんなときだったかな？</p> <p>そうだね、みんなのアンケートの中にも部活動やクラスで席が近くなったために知り合うというのが多かったね。</p> <p>○中島さん(女) あなたはこの作文の中の2人の交際をどう思いましたか。</p> <p>○男の人の中から、小暮君はどうですか。</p>	<p>中島(女) 大会で優勝するまでの2人の交際は、ごく自然な交際でいいと思いますが、ある日の夕方2人の行動は感心しない交際だと思います。</p> <p>小暮(男) ぼくも、前の2人の交際についてはいいと思います。しかし夕方2人の交際には悪いところがあると思います。</p>	<p>生徒を指名して</p> <p>↓</p> <p>5'</p>

<p>○では、また女の人に聞いてみよう。 増田さんはどうでしょう？</p>	<p>増田（女） 1対1の交際では、前半のようなつき合い方もあっていいと思いますが、後半のようなつき合い方には感心しません。</p>	<p>数人を指名したが大体同じような意見が出ていた。 （省略）</p>
<p>○いままでの意見を聞いていると前段の2人の交際をあたりまえの交際と考え後段の2人の交際には感心しないところがあるということですね。 それでは、どんなところが感心しないのか、そこのところを指摘してください。</p>	<p>小林伊（男） A君は仲よくなった彼女に対して計画的に夏休みのある日の夕方誘い出したのではないかと思う。その誘いに乗った彼女の態度に問題がある。</p>	<p>（クラスでは学力優秀だが、ひょうきんな皆の人気者である）</p>
<p>○男子から小林（伊）君の考えは？</p>	<p>綱本（女） 進学のことと頭がいっぱいであったが運動をやらなくなって何か気分の落ち着かないところもあって、話し相手が欲しくなって電話したのだと思う。</p>	<p>（クラスでは快活で、物事をはっきり処理する発言力の強い生徒）</p>
<p>○女子から綱本さんはどう思いますか</p>	<p>小林（包） グループの交際ならよいが、1対1の交際で夕方おそくまでグラウンドに残って、帰りに一緒に帰るなんてよくないことだ。それに暗くなるまで2人でいるなんてよくない。</p>	<p>挙手→指名 （学級のリーダー）</p>
<p>○この資料の中で「私」が受けた被害はどんなことだったのだろうか？</p>	<p>斎藤（男） A君が彼女を神社へ呼び出してキスしたことです。</p>	<p>○同意の表情が学級の中に示されていた。</p>
<p>○ではクラスの中では、この道のベテランの斎藤君に聞いてみよう。</p>	<p>小林（伊） 夕方、うす暗くなってしまって誰も見ていない所で話をしていたことだと思う。</p>	<p>○お互い顔を見合わせてなかなか発言をしない。 （笑い）</p>
<p>○そうですね。こういうように女性のいやがる行為をおこなうことを性被害といいます。性被害はとかく女性を受ける方の立場になることが多いのですがこの2人の場合どうしてこういう結果になったのだろうかね。</p>	<p>小林（包） 夕方になってかかってきた電話に誘われて出ていったこと。</p>	<p>挙手→指名</p>

<p>○儘田君、君がこのような状態で、かわいい彼女がミニスカートでそばで話をしていたら、あなたもA君のような行為をするでしょうか。</p>	<p>儘田（男） 家を出るときの服装がミニスカートという軽装だったこと。</p> <p>そのときになってみないとわかりません。</p>	<p>しばらく考えていたが</p>
<p>○儘田君は正直でいいね。男にはね女の人といっしょにいて、その人の言葉使いや、服装、態度などから積極的に行動する傾向があるんだよ。</p> <p>そんなところから性被害が起こるんだが、世間一般に言われている被害にはどんなものがあるか、みんなに聞いたたり、本を読んだりしたものを挙げてみよう。</p>	<p>○手をにぎる ○お尻をなでる ○はだかにする ○胸にさわる ○キスをする ○スカートをまくる ○着替えのときのぞく ○抱きつく ○性行為をする</p>	<p>(笑い)</p> <p>○性被害の種類を生徒への指名や挙手によって出てきたものを板書する。</p> <p>○最後の2つは教師からの提示。</p>
<p>○このようなことが起こるといふ事は大へんいけな事だと思うね。そこで、きょうは先生の方で用意したスライドをみんなで見ることにしよう。</p> <p>スライドの見えるところへ机を移動してみるようにしよう。</p>	<p>スライド上映 学研「中学生のからだ2」より 28. 29. 30. 12. 31. 32. 33. 13. 14. 34. の10コマを使用</p>	<p>12'</p> <p>スライド テープのスイッチを入れる 画面の写り具合を生徒に確認する。</p>
<p>○今見たスライドから、きょう勉強したこと。自分の今までの行動を反省したり、自分の考えも入れて机の上にある作業用紙に、性被害を起こさないためには、どのような態度をとったらよいかを具体的に書いてみよう。</p> <p>また性についての疑問点などがあつたら下に書いてみて下さい。先生から個人別に返事を書いてみたいと思います。約3分間くらいでまとめよう。</p> <p>では、できた人に読んでもらいましょう。</p>	<p>相沢（女） 服装は、はででなく中学生らしい服装をする。女の子はできるだけ外出しない。学校帰りなど暗い道などは男子がグループでいっしょに送って行ってあげる。</p> <p>野崎（女） 必要以上の慣れ慣れしいことばづかいは避ける。(以下略)</p> <p>神谷（女） 場所、相手をよく考えて外出するかどうかを決める。</p> <p>飯塚（男） 性欲が起きたら話題を変えて気分をそらす。運動などをする。</p>	<p>5'</p> <p>作業用紙配布 机間巡視をする 指名読み 板書 男子</p>
		<p>5'</p> <p>○積極的に行動する傾向がある。 ○見たり、聞いたり想像したりする事によって興奮しやすい。 (理性・意志) 女子 ○雰囲気好み精神的なもので満足する</p>

○きょう勉強したことを先生はこのようにまとめてみました。

男子の性行動の特性としては、積極的に行動し、性的に興奮しやすい。そのために接触欲、性交の欲を持つ。それを満足させるために性被害を起こしやすい。りっぱな男だったら強い意志と理性によって防ぐことができる。また女性には「おまえが好きだ」と言われるだけで満足できる本能をもっている。ここに男女の性本能のちがいがあ。そこで女性はこのような被害に会わないためには、男性の本能を誘発するような態度をとらないようにすることや、もしそのような場面に出会ったら話題や雰囲気を変えとか、場合によっては大声でどなるとか、その場に応じた機敏な態度をとることが大切ですね。これから、みんなが大きく成長して異性との交際を続けていくために、お互いを理解し、清く明るい交際のできるように努めましょう。先生はそれを望んでいるのです。では、本日の勉強はこれで終わります。

○興奮しにくい
○大声でどなる
逃げる
話題を変える

○作業用紙は学習係が集めて提出するように指示する。

5'

7. 感想とまとめ

授業実施後、ふり返ってみると、この授業を実施する前に諸先輩の意見を聞いたり、話し合ったりしたことが思い出される。中には性教育の不必要論を説く人もいた。その人の言うことは、人間はあらゆる条件の社会の中で生きている。だから、人間一人一人が接する性についての理解度は違っている。そんな異質な人間の集団の中で、ましてまだ未熟な子どもたちに敢えて指導する必要はないというのだ。指導するなら専門家がやればよい。自然の中に放置しておけば自然に理解し、それに対応できる人間ができる。というのだ。また、性教育に前向きな姿勢をとっている人は、どうも内容がきれいに流れすぎ、指導者は逃げ腰になっている。内容をもっと具体化して性をはっきり表現して、指導しなければ意義がない。という。私はこれらの意見を聞いて、どう取りくもうかと考えた。

前者の人の言うように、学級は性に対する関心度が様々な者のあつまりである。クラスの中に性を吹聴するものがあるのといないのでは、クラス差がはなはだしい。また、後者の人のような表現で授業を展開したら、おそらくエッチな先生とレッテルをはられるだろうし、生徒が興味本位になるであろう。

しかし、授業にあたって、生徒の実態調査から学級の生徒のようすがは握できた安心感、また、いつでも気軽に話し合えるような気分で生徒に接し、生徒一人一人を知ることができたことが、この授業に真剣に取り組んだ結果だったと思う。

また、そういうふんいきができたからこそ授業実施前に心配した生徒の発言も活発だったし、現在でも個人的にいろいろなことを相談に来るようになったことを、うれしく感じている。

8. 今後の課題

性教育については、だれもがしり込みして、なるべく避けて通りたい道であろうと考える。しかし、現状の社会情勢の中で、われわれ指導的立場にある者たちは、これを傍視していい問題だろうか。私はこの点に疑問をいただき、あえて勇気をもってこの問題に取り組み、学級指導という立場において実施してみたのである。

だが、これはこの場だけではない。あらゆる場において指導することが望ましいと考える。従って今後の課題としては、一つの学級、一人の指導者が実施すべき問題ではなく、学校全体の計画のもとで、職員相互の研修によって取りあげていくべきものとする。

評

性教育は難しい問題であるが、現在の社会情勢と生徒の実態の中では、学校教育において手をこまぬいているわけにはいかないという筆者の熱意と高い識見のもとに、この研究が行われたことに、まず敬意を表したい。生徒の実態を把握したうえで、指導のねらいが明確にされ、ねらいに即した資料が選定されている。特に、資料が指導の各要素を包含し、生徒自身の作文を基調にして作成されているため、生徒の精神的発達に即したものであったことが授業を成功させた大きな条件の一つと考えられる。性教育においては、資料のよしあしが授業の成果に大きくかかわってくるので、このような資料の吟味が重要であろう。さらに、授業の各所で生徒の本当の気持ちが語られていることから平素の学級が人間尊重の精神を基盤として、何でも話し合える雰囲気であるようだ。今後の問題としては、筆者も述べているように学校教育活動全体との関連を図り、学級指導で取りあげる内容を明確にして、全教師による研究・実践が行われることを期待したい。